

『豊田直二先生退職記念号』刊行に寄せて

社会福祉学部長 松 本 勝 明

豊田直二先生は1974年に茨城大学理学部を卒業後、千葉大学大学院理学研究科修士課程、同大学大学院医学研究科博士課程に進まれ、1981年に医学博士(千葉大学)の学位を取得されました。その後、財団法人東京都精神医学総合研究所研究員、千葉大学大学院医学研究科環境生命医学講座講師などを経て、2002年に熊本学園大学社会福祉学部教授に就任されました。本学部においては、長年にわたり研究と教育に従事され、2014年にはライフ・ウェルネス学科長に就任されました。

豊田先生の専門分野は「自然環境学」で、「熊本の環境変化と動植物相の関係」、「横紋筋の形成機構の解析」などをテーマに研究を進めてこられました。研究の成果は、熊本学園大学論集『総合科学』においても多くの論文などとして公表されています。また、学部教育として、「環境論」、「解剖学」、「自然科学と人間」、「ライフ・ウェルネス演習」などの科目を担当されたほか、大学院でも「環境生命学専門研究」などを担当されました。

豊田先生は、演習のなかで行われるフィールドワークに熱心に取り組まれました。フィールドワークとして行われた県内のホタル生息地への訪問や有明海の干潟に生息するムツゴロウの観察は学生間で「楽しかった」と評判になりました。ゼミ生にとっては大学での最も良い思い出の一つになったことと思います。また、球磨人吉地域において川辺川ダムの治水・灌漑問題、相良村の製茶産業と開拓の歴史、地域の自然資源を活用した地域産業としての本格焼酎産業についてのフィールドワークを共同実施され、先生は生物学の視点から実りあるアドバイスをされていました。各種のイベントなどにも積極的に参加され、写真撮影をされていたお姿が印象的でした。スポーツ・健康づくり関連の研修・授業ではカメラマンとしての腕を発揮され、地元のスポーツクラブの指導者による学生への技術指導や演舞・競技の研修活動などの写真撮影を担当されていました。この写真は、後日、大学での研修活動に活用されました。

豊田先生は、とても温厚なお人柄で、学生にも優しい先生として人気があり、フィールドワークで訪れた地域の人々も先生との交流を喜んでおられました。また、他の教員とも夕食を共にするなどして、親交を深めておられました。懇親会などで先生が物静かに語られる姿からは、優しさがにじみ出ているように感じました。

豊田先生、社会福祉学部における教育・研究にご尽力をいただきまして、誠にありがとうございました。退職後は自由な時間を楽しみ、こころ豊かな充実した毎日をお過ごしください。益々のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。